プレスリリース

2015 年 10 月 27 日

株式会社ミック経済研究所

－ 統合運用管理パッケージの出荷金額は、2014年度前年対比104．8%の1，408億円、なかでも運用自動化パッケージの出荷金額は、ビジネスを遂行するIT基盤を迅速・柔軟に整備・変更する必要性の高まりを受け、本格的な導入時期を迎えつつあり、2014年度前年対比132．2%の68．5億円 －

情報・通信分野専門の市場調査機関である株式会社ミック経済研究所（本社：東京都港区、社長：有賀　章）は、UNIX および Windows をプラットフォームとしたサーバ対応のミドルウェアパッケージソフトの市場動向を捉えた「**ハイブリッドクラウド対応進む ミドルウェアパッケージソフトの市場展望【運用・DB編】2015年度版**」を発刊し、「**統合運用管理パッケージ**」と「**運用自動化**」市場動向を発表しました。2015年度版は総合ソリューションベンダー5社とソフトウェアベンダー53社を対象に調査しています。この調査は直接ヒアリングから各社の数値をベースに積み上げ、2013年度から2015年度の運用管理関連パッケージ市場規模と、2019年度までの中期予測を行っています。
調査結果の概要は、以下のとおりです。

＜統合運用パッケージ市場＞

統合運用管理パッケージの出荷金額は、2014年度前年対比104．8%の1，408億円となりました。運用自動化の本格化、仮想化環境のコモディティー化、さらにはハードウェア資産の入れ替えを受けたIT資産管理やデータ量の急激な増大に対するセキュリティ管理やストレージ管理等が押し上げました。2015年度は前年比106．0%の1，493億円が見込まれます【図表1参照】。

コンプライアンスによる運用管理ツールの利用の浸透に加え、運用と開発面での協調による業務の最適化を追求するDevOpsの動きが加速しています。運用管理者の作業の自動化や仮想化のハイブリッド環境における管理ニーズの高まりを受け、2015年度以降も堅調な市場拡大が予測されまれます。

＜運用運用自動化市場＞

運用自動化パッケージとは、ジョブの遂行、監視など管理者の手作業など運用手順を自動化することで IT システムの安定運用を実現させるツールです。

近年、市場環境変化が加速し、ビジネスを遂行するIT基盤を迅速・柔軟に整備・変更する必要性が増しています。こうした中、属人的な技術・ノウハウに頼った運用では、ビジネス部門の要請に応えられないばかりか、人的ミスの排除も容易なことではありません。これを受けて、運用の標準化、自動

化が見直され、本格的な導入時期を迎えつつあります。

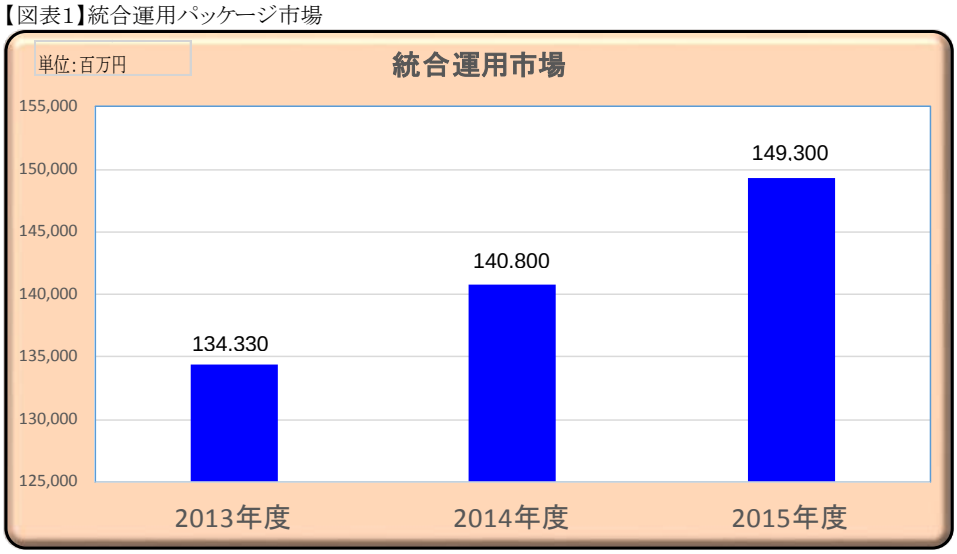
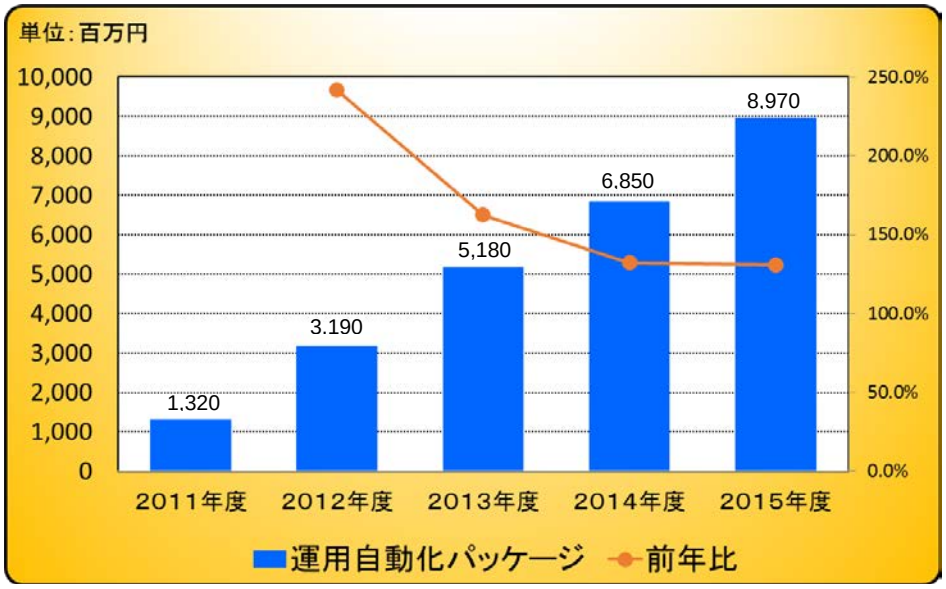
運用面での効率化を受けて、開発部門への人員再配分など運用・開発部門の協調によって短期間で完成度の高い企業システム作りを目指す「DevOps」に注目が集まっています。さらにクラウドインフラの構築において迅速・柔軟なリソース調達・廃棄をオープンソースで可能にする「OpenStack」に関心が寄せられています。こうしたことからクラウド上でシステムを開発し、クラウド上で運用まで行うことによって開発環境と運用環境という壁を物理的に取り払い、両部門が協力し合える仕組みの提案が活発化しています。

運用自動化パッケージの出荷金額は、2014年度前年対比132．2％の68．5億円となり、日立製作所、日本電気、日本IBMなどが参入以来、クラウドサービス管理に注力することで市場拡大に貢献しています。2015年度は、クラウドリソースの仮想化・自動化拡大が加速することから89．7億円、前年比130．9%が見込まれます【図表2参照】。

報道関係からのお問い合わせは以下の担当までお願いいたします。

株式会社ミック経済研究所
担当：樋口　一則
東京都港区芝 4-7-8　芝サンエスワカマツビル 10Ｆ　　Tel.: 03（5443）2991
E-mail：　khiguchi@mic-r.co.jp
Home Page：　www.mic-r.co.jp

【図表1】統合運用パッケージ市場



【図表2】運用自動化市場